

ドイツ車整備・メンテナンス サイト立ち上げ情報発信



セイルシステム おだ よしふみ 小田 芳史社長

オーナーに正しい知識を

輸入車整備工場の支援サイトや整備技術の応対支援などを手がけるセイルシステム（大阪住之江区）は5月末、ドイツ車の整備やメンテナンス情報を発信する有料コンテンツサイト「メンテナンス・ラボ・アーカイブ」を立ち上げた。小田芳史社長は「サイト開設の経緯やコンテンツの内容、今後の展望などを聞いた。」（船山 知彦）

「近年、国内の輸入車市場は

拡大しており、オーナー数も増加している。輸入車オーナーは比較的1台の車を長く乗る傾向にあり、整備やメンテナンスをたしなむ方も多い。一方で、輸入車に触るハードルは決して低くない。私たちが調べた範囲では、輸入車の整備に関する正しい知識や情報を包括的に扱っているサイトはほとんどなかった。当社は整備工場への技術応対支援を15年以上に渡って手がけており、輸入車に関するさまざまなノウハウを蓄積してきた。これらの知識や情報を発信することで輸入車に触るオーナーを増やし、業界全体を盛り上げていくことを狙ってサイトを立ち上げた」

「オーナー数の多いメルセデス・ベンツとBMW、フォルクスワーゲン、アウディの4ブランドに特化した。ポリウムゾーンだったことに加え、当社が特にノウハウを保有しているブランドだったことも理由の一つだ」

「コンテンツの内容は「ブランドごとに様々な故障例や修理方法を取り上げている。基本的にはオーナー向けのため車種の特長をしないといった汎用性の高さも心がけていた。維持費の抑制といった、全ての車種が関係するテーマに絞った記事もある。2000年代以降の車両が中心だが、それ以前の車の情報も扱っている。月額利用料は3500円（消費税別）だが、無料コンテンツも増えている。」

「サイト設立から約1カ月が経った。読者の反応は「ほぼ毎日、コンテンツの更新を続けており、読者も順調に増えている。エクステリアのメ



5月にオープンしたメンテナンス・ラボ・アーカイブ

主要4ブランド 整備工場も視野

メンテナンスに関する情報が特に好評だ。ヘッドレンズの黄ばみの除去についての記事の閲覧数が思いのほか多いといった予想外の反応もあった」

「整備工場の利用も視野に入る。基本的にはオーナー向けのサイトだが、整備業者に活用してもらいたいことも想定している。例えば、これまで国産車しか手がけてこなかった整備工場にとっては輸入車整備を始める際のガイドになる。新入社員向けの教育資料としても活用できる。検索機能も豊富なため、困った時に迅速に情報を調べることが可能だ」

「今後の展望については「コンテンツをより充実し、会員数を増やしていく。1年後に1千人が目標だ。将来的には会員同士が交流できるコミュニティも開設したい」



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
購読料 1カ月5343円＋税
電話 東京(03)5777-2351代表
©日刊自動車新聞社2019

6月25日
(火曜日)

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。